

群馬大学基金

2023年度 事業報告書



あなたの寄附が
群馬大学の未来を創る



群馬大学

群馬大学基金への御支援に対するお礼

皆様には、日頃より群馬大学へ温かい御支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

皆様のおかげで、2023年度も経済的困窮学生に対する奨学金給付や留学経費の補助、能登半島地震で被災した学生への支援金の給付といった学生支援事業を行うことができました。今後も学生が経済的な理由で進学を諦めることのないよう、支援を継続してまいります。ウクライナ学生・研究者の受け入れ支援についても3年目を迎えますが、終わりの見えない戦争の中、勉学や地域交流に積極的に励んでいる学生たちを引き続き支援してまいりたいと思います。

また、おかげさまで昨年本学は創基150周年を迎えることができました。その節目を機に「駆けろ未来へ150年の歴史と共に」のスローガンのもと、食健康科学に関する新しい価値を生み出す、教育・研究の拠点を整備する構想を進めております。学内外の研究者や産業界、地域の自治体関係者が集い、その成果を地域・社会に還元するオープンイノベーション施設の建設に、皆様の御賛同を頂くとともに、格別の御支援を賜りたく、お願い申し上げます。

今後も、本学のビジョンである「地域に根ざし、知的な創造を通じて、世界の最先端へとチャレンジし、21世紀を切り拓く大学へ」の実現に向けて、努力してまいります。引き続き群馬大学基金に御支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

国立大学法人群馬大学長

石崎 泰樹



群馬大学基金による事業

基金への寄附金は、寄附者様の御意向に沿って以下の事業で活用させて頂いております。

事業の概要



学生の修学支援 に資する事業

経済的理由により修学が困難な学生に対する奨学金の給付、海外留学費用の補助等



大学運営全般 に係る事業

教育研究の支援、国際交流の推進、教育研究環境及び附属病院の整備等



重粒子線治療 の普及・発展 に資する事業

重粒子線治療施設の機器更新、新規技術の研究開発等



学生や若手 研究者の研究 支援に資する事業

公募型プロジェクトの費用補助、論文刊行費用・学会参加旅費の支援等



ウクライナ 学生・研究者 受入支援事業

教育・研究活動の継続支援、生活支援等



創基150周年 記念事業

食健康科学に関するオープンイノベーション施設の建設

遺産による御寄附

生前の御寄附のほかに、皆様の想いを未来へ届けるため、遺産による御寄附も承っております。

遺言による御寄附（遺贈）

遺言書を作り、遺す財産を相続人以外の人や団体に贈ったり、寄附したりすることを「遺贈」といいます。本学へ御遺贈いただきました財産については、原則として相続税が非課税となります。

なお、本学は遺贈をお考えの皆様の手続きの便宜を図るために、銀行と協定を締結しており、煩雑な相続手続きを銀行が代行いたします。

遺贈による御寄附をお考えの方は、お気軽に御相談ください。

相続財産からの御寄附

故人の御遺志、御遺族の意思に沿い、相続された財産について群馬大学への御寄附を承ります。相続税申告期間内（被相続人が御逝去された翌日から10ヵ月以内）に本学に御寄附いただいた財産については、相続税がかかりません。

なお、相続税の非課税措置を受けるには、本学が発行する寄附金領収書を添付して税務署に申告していただく必要がありますので、相続財産の御寄附をお考えの方は、お早めに御相談ください。

群馬大学基金の2023年度の活動を事業ごとに御報告します。

(1) 学生の修学支援に資する事業

①経済的困窮学生に対する修学支援金給付事業

▼奨学金として20万円を大学院生12人に給付（総額240万円）

経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生12人に、返済を要しない奨学金として、一人20万円を給付いたしました。

御寄附をいただいた皆様に感謝し、社会に貢献できる学生を育ててまいります。

▼修学支援金給付を受けた学生の声

理工学府 1年生 永石 剛

この度は、群馬大学基金による修学支援金給付事業による御支援をいただきありがとうございます。私の家庭は母子家庭であるため、普段の大学生活を送るにも、研究活動の時間を削りアルバイトを行い、日々どうやって節約していくか考えながら生活しています。そのため、このような支援をいただくことができ、今後の大学生活、またこれから始まる就職活動を行ううえで精神的・経済的な余裕が生まれ、より一層学業や研究に集中して取り組むことができます。群馬大学基金へ御寄附いただいた方々に心から感謝しております。この感謝の気持ちは、大学院で行った研究の成果や今後の活躍で恩返ししたいと考えております。皆様からの御期待に応えられるよう日々の研究をより一層充実させていきたい所存です。

この度は誠にありがとうございました。

理工学府 1年生 高橋

この度は、群馬大学基金における修学支援金の給付、誠にありがとうございます。私は、御支援いただいた支援金を活用して、海外での研究活動に注力していきたいと思っております。今年度は、オーストラリアの大学に3か月間留学して研究活動を行いました。この経験から、海外での研究は渡航費や生活費がかさむことを実感し、今後は、経済的な理由から海外留学を断念せざるを得ない状況でした。私の家庭は生活が苦しく兄弟も多いため、両親から生活費の援助を受けることはできません。しかし、今回の支援のおかげで生活にゆとりが生まれ、また海外の大学で研究活動を行うことができます。今後も海外の大学に出向き研究を重ね、研究活動の幅を広げるとともに、群馬大学で培った知識を海外に広めたいと思っております。重ねてとなりますが、御支援をいただき誠にありがとうございました。

理工学府 1年生

この度は、群馬大学基金における修学支援金をいただき、誠にありがとうございました。研究に専念するためにアルバイトをする時間が取れないことに加え、これから始まる就職活動のための出費が多く、常に経済的な不安がある状態でした。そんな中で、今回の支援をいただけることになり大変嬉しく思っています。本学卒業生や地元の方々など、群馬大学に寄附してくださる方がこんなにも多くいらっしゃることに驚き、感動しました。私は、多くの方々の支援を受けていることを忘れず、これからの研究生生活を送っていきたく思いました。社会に出たら、私も困っている後輩の力になりたいと思っております。

②留学経費補助事業

グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、国際交流や留学意欲のある学生に対し、海外派遣のための奨学金を支給しました。

▼ベトナムFPT大学研修

渡航先：ベトナム（2023年8月20日～9月2日）

医学部保健学科看護学専攻 1年 林 愛姫

この度は留学経費を補助していただき、ありがとうございます。私は本研修で初めて海外で過ごし、文化や環境の違いに圧倒されながらも、視野を広げる良い経験ができました。海外で英語を使ってコミュニケーションをとることに最初は苦戦しましたが、伝えたいことが伝わった時の喜び、逆に私自身の語彙不足から英語を勉強するモチベーションにつながりました。インターンでは病院に見学に行かせていただきました。日本とは異なる環境やシステムであり、日本の医療が非常に進歩していると感じる点多々ありました。インターン先で教えていただいた病気についての知識が私にはまだないものばかりだったため、これから病気のことについて深く学んでいきたいです。今回の留学で得た経験を、今後の生活で生かしていきます。この度は御支援いただき、本当にありがとうございました。



現地の先生と

▼ハワイ大学マノア校研修

渡航先：アメリカ（2024年2月25日～3月28日）

大学院保健学研究科 修士1年 青柳 瑠南

ハワイ大学の研修では、3週間の英語プログラムに加えて約2週間の環境問題プロジェクトを行いました。私は、英語を実際に使う機会がなかったため、4スキルのうちListeningとSpeakingにおいて苦手意識をもっていました。しかし、英語プログラムを通して、英語を話すことの楽しさを知ることができ、未熟な英語であっても積極的に話してみようと思えるようになりました。環境問題プロジェクトにおいては、ハワイで実際に起こっている環境問題について現地の専門家の方からお話を聞くことで、オンラインでは学ぶことができな



プログラム参加者と

い知識を得ることができました。また、フィールドワークを行ったことで、ハワイの保護されるべき美しい自然を五感で感じることができました。私自身、初めての海外でしたが、現地ではできない多くの貴重な経験をすることができました。ハワイで学んだことを日本での生活にも生かしていけるように今後も精進したいと思っています。この度は、金銭面で援助していただき、ありがとうございました。

▼ウーロンゴン大学研修

渡航先：オーストラリア（2024年2月25日～3月30日）

医学部保健学科検査技術科学専攻 2年 澤瀬 理子

新しい環境で多くの人と出会い、非常に充実した日々を送ることが出来ました。

午前はネイティブの先生方の授業を受け、正しい発音やアメリカ英語との違い、ことわざなど日本の授業では学べない内容を分かりやすく教えて頂き、改めて英語の面白さと難しさを実感しました。

授業の他にプロジェクトワークにも取り組み、オーストラリアと日本のLGBTQ+に対する考え方の違いを調べました。ホストファミリーや先生方、現地のLGBTQ+の学生にインタビューを行い、「なぜオーストラリアではLGBTQ+に対する偏見が少ないのか」「日本が行うべき解決策は何か」を自分たちで考察しました。休日にMardi Grasと呼ばれるLGBTQパレードを見にシドニーへ足を運び、日本との違いを身をもって感じる事が出来ました。

また初日から積極的に行動することを心掛け、現地の学生に声をかけ一緒にご飯を食べたり、放課後にサークルに参加したりと自分から国際交流も行えました。

この5週間を通して今後の課題と将来の夢がさらに明確になり、貴重な春休みを過ごすことが出来ました。このような経験をさせて頂いたこと誠に感謝しております。御支援ありがとうございました。



プログラム参加者の集合写真

(2) 大学運営全般に係る事業

①グローバルチャレンジプログラム

学生が自ら企画したユニークかつ個性ある海外での活動に、最大50万円を支給するプログラムです。審査で選ばれた学生に奨学金を支給しました。

▼クリニックが性教育を担う社会づくりに迫る！

渡航先：スウェーデン（2023年11月11日～11月25日）

医学部医学科 5年 川崎 実代

私は5年生の秋に2週間、群馬大学基金から御支援をいただき、スウェーデンに留学し、現地の性教育システムについて学びました。日本では、教育現場で性交や避妊について教えることは、学習指導要領の規定や、教え方の難しさ等の観点から、非常に厳しいのが現状です。そこで、医療者が学校の性教育を担えるのではないかと考え、スウェーデンのユースクリニックに注目し、その機能について学びたいと考えました。併せて、スウェーデンの教育現場での性教育は世界最先端と称されています。現地では、ユースクリニックに加え、幼稚園から高校までの教育機関を訪れ、性教育の授業や取り組みを視察してきました。また、フィールドワークとして、現地の大学生や、性教育研究者、看護師、子育て中の方と性教育に関する意見交換を行いました。

現地において、日本とスウェーデンでは、社会の仕組みや思想など異なる点が多くあることを実感しながらも、日本の性教育がより良いものになるためのヒントを多く得ました。今回の留学を御支援いただきました、寄附者の皆様方に心より御礼申し上げます。将来医師になった際、この貴重な学びを生かしてまいります。



現地の高校の先生と

▼「アジアの医療の自立を促進するために取り組むべきことを明らかにする」

渡航先：カンボジア（2024年2月13日～3月13日）

医学部保健学科看護学専攻2年 久保田 凜 依田 莉李花

第5期グローバルチャレンジプログラムでカンボジアに渡航いたしました。この留学では、現地の生活に密着しカンボジアの医療・公衆衛生について学んできました。農村部で暮らす住民の健康チェックや病院実習を通して、日本とは根本的に異なる医療や衛生管理の現状について知ることができました。現地でのインタビューやアンケート調査を通して、住民の生活習慣病に対する理解の有無や生活習慣の状況を知ることができ、地区踏査によ

る学校視察を通して、子供達の教育状況や衛生管理状況などについて見ておくことができました。生活習慣病予防への取り組みの必要性や子供時代からの教育と親への経済的負担の軽減の重要性について考える機会となりました。

実際に自分たちの目で見え触れ、感じる事ができた今回のカンボジア留学を実現させていただき、ありがとうございました。本留学において御支援くださった群馬大学基金の寄附者の皆様をはじめ、すべての皆様に心より感謝申し上げます。



留学先の子供たちと

▼デンマークの住人となって幸せと健康の秘訣を探す ～3つのSDGsでwell beingの源に触れる～ 渡航先：デンマーク（2024年2月25日～3月20日）

医学部医学科 6年 高野 彩佳

今回の留学では、フォルケホイスコーレ（デンマーク独自の学校形態）での寄宿生活をしながら複数の課外活動を実施しました。

フォルケホイスコーレの授業では、社会・環境・経済・健康などの観点から自分や環境に対するサステナブルな暮らしを学ぶコースを受講しました。これまであまり触れてこなかった食生活や東洋医学などの内容も学ぶことができ、食事と体調の関係や、環境負荷を考える点など、これまで自分が医学部で学んできたこととの一致や差異に驚きました。

また、課外活動として、現地小中学校への訪問、性教育に関するインタビューや調査、市役所（福祉・若者支援部門）訪問を実施し、世界に高く評価されているデンマークの教育・福祉制度の長所だけでなく現在抱えている課題についても学ぶことができました。（発達障害や問題行動が見られる子供を普通級で一緒に見る法律に伴って教師の負担が増大し、学級運営が難しくなった、など）

最後になりますが、このような貴重な機会をくださいました、群馬大学基金の寄附者の皆様、グローバルイニシアチブセンターの先生方、学務部海外交流課の皆様、本プログラムに御協力いただいた全ての方に心より感謝申し上げます。



訪問先の小学校の校長先生と

②能登半島地震被災学生への支援金給付事業

▼能登半島地震により、自身やその生計維持者が住んでいる家が被災した学生に対し、20,000円のお見舞金を支給しました。

▼修学支援金給付を受けた学生の声

共同教育学部美術専攻 2年

この度は群馬大学基金による御支援をいただき誠にありがとうございます。

あの日実家のある石川県に帰省していた私は、地震で、今まで生きてきた中で一番の恐怖を体感し、凄惨な光景を目にしました。家を失い親しい人を失い、経済的にも精神的にもこれまでどおりに修学できるのか不安でした。今回の御支援をいただけたことにより、修学への不安が和らいただけでなく、御支援の報告をするにあたって、被災地に残る家族の心を癒すことができました。支援をしてくださる皆様の想いを胸に将来は子どもたちの学業を支えられるような人を目指してこれからの大学生活をより一層充実させてまいります。

情報学部情報学科 1年

この度は温かい御支援をいただきまして誠にありがとうございます。

帰省中のお正月に、今までに経験したこともないほどの激震に襲われ、余震が続く中、不安な日々を過ごしました。実家は住むことができなくなり、家族は住み慣れた土地を離れることになり、途方に暮れておりました。そんな中で思いがけない支援金をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。この御恩に報いるためにも、残りの学生生活を精一杯頑張り、社会に貢献できるよう精進していきたくと思います。

理工学部電子・機械類 1年

今回の震災で被災し、群馬大学基金から支援をいただきました。私は石川県輪島市出身で、建物の崩壊や火災などの多大な被害に見舞われました。しかし、その中での支援はとてありがたく、私だけではなく、家族や周りの人たちの支えになると感じました。そして、群馬大学を卒業後は、故郷である輪島に役立つことをしたいと感じました。このような温かい支援をくださった群馬大学、また、寄附者の皆様にはとても感謝しています。これからも勉学に励み、頑張っていこうと思います。本当にありがとうございました。

理工学部電子・機械類 3年

この度はこのような支援をしていただき本当にありがとうございます。地震当日、私は帰省しており、実家や地元の街が壊れていくのを目の当たりにしました。とても怖かったです。被災地で暮らす家族は3ヶ月経った今も元の家では暮らすことができず、別の場所で生活しています。そういった状況の中、今回、群馬大学基金からの支援をいただけたことは、私だけでなく家族にとっても本当にありがたいものでした。心から感謝申し上げます。今後も勉学に励んでいく所存です。本当にありがとうございました。

(3) 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

2023年度の重粒子線治療の普及・発展に資する事業はありませんでしたが、重粒子線治療の現状と今後の展望について、御報告いたします。

重粒子線治療の健康保険適用が広がっています

群馬大学重粒子線医学研究センター センター長 大野 達也
副センター長 田代 睦

群馬大学の重粒子線治療は、2010年3月に先進医療として始まりました。厚生労働省は定期的に先進医療技術の安全性や有効性を評価しており、重粒子線治療もその対象です。国内では2016年に骨軟部腫瘍が初めて保険適用となり、その後も2018年に前立腺がんと頭頸部がん、2022年には肝細胞がん、肝内胆管がん、局所進行膵がん、手術後の大腸がん再発、子宮頸部腺がんが保険適用として追加されました。さらに2024年には早期肺がん、局所進行子宮頸部扁平上皮がん、悪性黒色腫も保険適用となりました。本学の重粒子線治療を受けられる患者さんの数はますます増加しています。患者数の推移を図に示します。延べ患者数は7,100名、年間治療患者数は800名近くに達しています。そのうち約9割の治療が保険診療で行われ、多くの患者さんにとって身近な治療法となってきています。今後も患者さんに最善の治療を提供していきます。

重粒子線治療の保険適用疾患はますます広がり、この治療を必要とする患者数もさらに増加することが予想されます。このような状況の中で、重粒子線治療を安全かつ確実に提供することは、本学の重要な使命です。同時に、更なる進歩を目指し、重粒子線治療に関する生物・臨床研究や新技術の研究開発を推進することや、治療に関わる医療従事者や研究開発を担う人材の育成も、重粒子線治療施設を持つ数少ない大学としての使命です。本年度末には本学の放射線医療への取り組みが国際原子力機関（IAEA）に評価され、IAEAの協力機関として選定されました（写真）。

治療開始から14年が経過し、将来的には大規模な機器更新が必要となる見込みです。重粒子線治療の安定的な継続と今後の更なる普及や発展のために、皆様の御支援をお願い申し上げます。



図：重粒子線治療患者数の年度別推移



写真：群馬大学がIAEAの協力機関として認定、授与された記念プレート

(4) ウクライナ学生・研究者受入支援事業

今般のウクライナ情勢を受けて避難した学生及び研究者の教育研究活動の継続のため、生活支援及び日本語学習支援等を行いました。

共同教育学部科目等履修生 マリア

群馬大学にウクライナ避難民を受け入れていただいていたから約2年が経ちました。

私は日本語に強い興味を持っており、その気持ちを歓迎される環境で学ぶ機会を得られたことに非常に感謝しています。ウクライナでは日本語学を専攻していましたが、群馬大学では日本語の授業だけでなく、様々な経験を得ることができました。彫刻の授業では、人生の中で初めて石とプラスチックで彫刻を作りました。また、素晴らしい琴と三味線のクラスや日本の芸術の授業なども受けました。このような学習ができるとは想像していませんでしたが、群馬大学が私にこの機会を提供してくれました。

授業を受けることだけでなく、様々な交流イベントにも日本の学生や留学生と共に参加しました。これにより、今までの私の視野が広がり、世界に対する理解が深まりました。

群馬大学は、私たちにウクライナに関するイベントやプレゼンテーションを企画する機会も与えてくれました。私たちの文化を日本人と共有することができました。これは、私たちウクライナ人にとって、故郷から何千キロメートル離れていても、所属意識やコミュニティ感を生み出してくれます。

遠く離れているにも関わらず、ウクライナ人にこれほどの支援を提供してくれる日本のような国は世界中に他にないと私は確信しています。

私に与えてくれた全ての経験とサポートに感謝してもしきれません。学問的な成長だけでなく、文化的な成長、そして何よりも重要なのは個人的な成長もできる環境を与えてくれてとてもありがたいです。祖国にとって大変な時期に、私は群馬大学と支援者の皆様のおかげで安全な生活を送れたことに心より感謝申し上げます。

共同教育学部科目等履修生 ポリナ

私はウクライナ出身のポリナです。2022年10月から群馬大学で学ぶ機会を得ることができ、とても喜んでます。最初は、日本とウクライナの文化の違いや、大学での勉強が初めての経験だったので、多くの心配がありました。けれども、幸いなことに、群馬大学の教職員とそばにいるとても優しく親切な人々のサポートのおかげで、私はすぐに新しい環境に慣れました。

私は日本語、英語、そして日本の伝統楽器である琴のクラスに参加することができました。他にも、いつも素晴らしい授業をしてくださり、いつでも相談にのってくださる先生方のおかげで、日本語をより深く理解できるようになり、とても嬉しいです。さらに、琴は私の趣味となり、最初に琴を弾いてみた瞬間から、私は毎学期、琴のクラスに通い続けています。

将来の目標は、日本とウクライナの架け橋として働きたいと考えています。両国の友好関係に貢献したいです。日本人とウクライナ人の母国語が全く異なっても、常に共通の言葉を見つけることができると強く信じています。

日本はとても美しいし、豊かな文化を持つ国です。私はこんな若い時期に毎日様々な素晴らしい経験ができたことに感謝しています。前橋にいて、安全で、毎日新しいことを学べることに感謝しています。



「ユネスコシンポジウム IN 安中 2023 (安中碓氷ユネスコ協会主催)」での講演の様子

(5) 創基 150 周年記念事業

群馬大学は、2023年に大学の起源である「小学校教員伝習所」設立から150周年を迎えました。

これを記念して、11月25日～26日に式典ならびに各種行事を開催いたしました。



▼記念式典

石崎学長の開式挨拶に続き、文部科学大臣（代理）、国会議員、群馬県知事ほか来賓の皆様から祝辞をいただきました。続いて、学生代表による祝辞、共同教育学部音楽専攻の教員・学生による祝歌が披露されました。



▼記念講演会

本学の卒業生であり、昨年までフランスにある国際熱核融合実験炉、ITER機構長を務めていたITER / QST名誉フェロー・本学名誉博士である多田栄介様に、群馬大学で学ばれたこと、そしてそれを核融合の研究開発やITERにおいてどのように活かされたのか、グローバルに羽ばたくことが出来る現在の学生に期待することを御講演いただきました。



▼シンポジウム

「変革の時代の大学～産・学・官で考えるこれからの教育とDX～」

デジタル技術やAIの急速な進化を念頭に、大学・行政・民間それぞれ分野で進む変革、課題、展望を俯瞰しつつ、その中で、大学や学生が未来社会の形成にどのような役割を果たすべきか、学生や社会が大学に求めているものは何かを広範囲にわたって議論し、予測困難な時代であっても、新しく学び続けていくことの大切さなどを共有しました。

▼その他の事業

ベストティーチャー賞 表彰式・公開模擬授業
ディスティンギッシュト・ヤングリサーチャー
称号授与・記念講演
学生企画 「みんな集まれ！コミュニティ café」
学生企画 「卒業生によるトークセッション」



2023(令和5)年度群馬大学基金収入支出決算書

1. 収入決算

(単位：円)

事 項	R4 収入額	R5 収入額
(1)学生の修学支援に資する事業	33,065,110	7,709,000
(2)大学運営全般に係る事項	4,553,823	4,345,102
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業	12,400,000	12,126,000
(4)学生等への研究等支援に資する事業	9,308,188	2,611,000
(5)ウクライナ学生・研究者受入支援事業	5,538,902	1,240,425
(6)創基 150 周年記念事業	262,000	15,167,000
(7)受取利息	5,599	6,096
合 計	65,133,622	43,204,623

2. 支出決算

(単位：円)

事項	内 訳	R5 予算額	決算額
(1)学生の修学支援に資する事業		4,900,000	4,090,637
①経済的困窮学生に対する修学支援金給付事業	大学院生 12人(前期6人、後期6人) × 200,000円	2,400,000	2,400,000
②留学経費補助事業	長期留学 4人に対して計513,700円 短期研修 17人に対して計1,176,937円	2,500,000	1,690,637
(2)大学運営全般に係る事業		5,661,300	4,110,502
①グローバルチャレンジプログラム	500,000円 × 4件	3,500,000	2,000,000
②基金事業事務費	基金システム運用費、基金ホームページ運用費、基金銘板移設及び増設工事	2,081,300	2,030,502
③能登半島地震被災学生への支援金給付事業	20,000円 × 4人	80,000	80,000
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業		869,000	869,000
①重粒子線医学センターの基金銘板増設	基金銘板増設工事	869,000	869,000
(4)学生等への研究等支援に資する事業		0	0
※ R5年度の事業なし		0	0
(5)ウクライナ学生・研究者受入支援事業		3,200,000	2,676,556
①ウクライナ学生・研究者の受け入れ支援	受入れ者：学生3人、非常勤研究員1人 住居費、非常勤職員賃金、チューター謝金、交通費	3,200,000	2,676,556
(6)創基 150 周年記念事業		5,212,037	5,212,037
①創基 150 周年記念事業	式典・記念講演、シンポジウム、記念動画作製、全学広報スペースでの催事費用等	5,212,037	5,212,037
合 計		19,842,337	16,958,732

3. 繰越額

(単位：円)

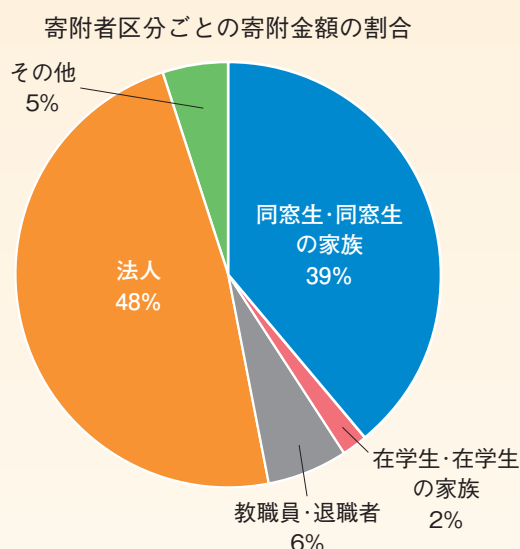
事 項	前期繰越額	翌期繰越額
(1)学生の修学支援に資する事業	78,703,286	82,321,649
(2)大学運営全般に係る事項(利息6,096円を繰入)	51,678,108	51,918,804
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業	338,895,997	350,152,997
(4)学生等への研究等支援に資する事業	22,719,188	25,330,188
(5)ウクライナ学生・研究者受入支援事業	3,192,496	1,756,365
(6)創基 150 周年記念事業	262,000	10,216,963
合計	495,451,075	521,696,966

群馬大学基金に御支援いただきありがとうございました。

寄附者と群馬大学の関係

寄附者区分	件数	寄附金額 (円)
同窓生 同窓生の家族	162	16,809,000
在学生 在学生の家族	21	653,000
教職員 退職者	33	2,690,000
法人	58	20,799,022
その他	19	2,247,505
総計	293	43,198,527

※ 2023年4月1日～2024年3月31日の寄附



2023年度寄附者の御芳名

御寄附いただきました皆様に深い感謝の意を込めまして、御芳名を掲載させていただきます。
 ※2023年4月1日～2024年3月31日の期間に御寄附のお申込みをいただいた方で、お名前の掲載を許可いただいた方のみを掲載しております。

個人寄附者御芳名

(五十音順・敬称略)

相原 忠義	一瀬 正信	小山 徹也	小島 章	佐名木 勇	添田 勉
秋山 典夫	伊藤 晃子	笠原 浩一	小竹 裕人	猿木 和久	高橋 治
足立 敏明	稲田 茂昭	片倉誠之助	後藤 文夫	塩田 利彦	高橋 宗彦
荒井 裕子	今井 謙二	加藤 弘道	小林 弘一	清水 和夫	滝澤 雅雄
新井 豊	梅島 昌	金子 英樹	米田 裕	清水 浩二	七夕 嵩真
飯島 久香	浦部 忠久	川田 拓海	近藤 潤	清水 武雄	田村 武
飯田 徳雄	大澤 英夫	菊池 彰隆	齋藤 繁	清水 増男	千原 正貴
飯塚 健	大嶋 清宏	岸 美紀子	齋藤 浩一	下村 卓	塚本 一文
飯野 佑一	大塚健之介	木村 大吉	境野 俊男	白倉 賢二	土谷 征弘
五十嵐真奈美	大塚 千織	金城 忠雄	嵯峨 六雄	末永 論介	手塚 誠
池田 裕治	大槻 智宏	草刈 伸治	坂本 和秀	末松美知子	寺尾 昭宏
石川 三衛	岡野 弘文	黒川 公平	坂本 成人	壽崎 玲子	寺尾 直子
石崎 泰樹	岡本 栄一	桑島 伝一	佐口 幸利	鈴木 庄亮	徳江 雅士
石田 秀行	小川 哲夫	桑原 澄男	櫻井まち子	鈴木 秀雄	登丸 杏
出雲 涉	萩野 正夫	小金澤智代	笹澤 佳子	須田 千幸	中里 洋一
磯 文夫	小曾根 賢	小暮 公孝	佐鳥 博子	住山 民雄	中田 逸夫

中林 公正	服部 晶	平賀 礼之	松本 満臣	森 昌朋	横田 賢治
永松 弘充	羽鳥 基明	平塚 浩士	丸山 和子	矢島 正	吉田 寛
中村 啓夫	林 邦彦	廣田 泰士	三浦 由太	矢島 泰子	吉田 勝
中山 利行	原 大作	深津 章	溝江 祐介	柳沢 琳江	吉松 栄彦
奈雲 太郎	原 康幸	藤井 絹代	峯岸 敬	柳沢 靖浩	六本木 充
根本 玲子	針ヶ谷 諭	堀米弥太郎	宮下 桂介	山田 君代	若松 正晴
萩山 正治	日永 正彦	間島 竹彦	村本 卓郎	山本 進	
秦 誠一	平井 大介	松崎 茂	森口 敏生	横尾 英明	

匿名希望の寄附者様 60名様

法人・団体寄附者御芳名

(五十音順・敬称略)

株式会社アイ・ディー・エー	株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション
あかぎ信用組合	株式会社シィオ
アプライド株式会社	株式会社ジーシーシー
池下工業株式会社	しげる工業株式会社
伊勢崎ガス株式会社	システムセイコー株式会社
植木プラスチック株式会社	医療法人春光会宮久保眼科
鶴川興業株式会社	上武印刷株式会社
王子製鉄株式会社	株式会社上毛新聞社
邑楽館林農業協同組合	株式会社総合PR
太田市農業協同組合	高崎北ロータリークラブ
有限会社柏屋	チヨテック株式会社
菊地歯車株式会社	一般財団法人同愛会
技研コンサル株式会社	東京パーツ工業株式会社
株式会社木村铸造所	株式会社登利平
株式会社協正金型製作所	医療法人長岡産婦人科医院
株式会社群電	株式会社日本キャンパック
公益社団法人群馬県医師会	株式会社野村建設工業
群馬大学医学部第8回卒業生	株式会社原田
群馬大学FORS国際医療ボランティアの会	星野総合商事株式会社
群馬大学グローバルフロンティアリーダープログラム在籍学生有志	丸三飲料株式会社
群馬大学工業会神奈川県川崎支部	ミヤズファミリー株式会社
群馬大学工業会横浜支部一同	株式会社山口不動産
群馬トヨペット株式会社	株式会社ヤマト
ぐんまみらい信用組合	株式会社ユタカ製作所
国際ロータリー第2840地区	株式会社ヨーユーラボ
株式会社小間工業	株式会社吉田鉄工所

匿名希望の法人・団体様 5法人・団体様

群馬大学創基 150 周年記念事業 ～食健康科学のイノベーション拠点構想～

群馬大学は、1873年に設立された「小学校教員伝習所」から創基150周年を迎え、その節目を機に「駆けろ未来へ 150年の歴史と共に」のスローガンのもと、新しい価値を生み出す教育・研究の拠点を整備することといたしました。

群馬県は豊かな農畜産業と首都圏へのアクセスの良さを背景に、食品産業が地域経済において重要な位置を占めております。一方、本学は食品科学、食品生産工学、医科学、保健学などを基盤にした食健康科学の研究を得意としております。そこで、高付加価値食品の開発、環境負荷の少ない食品生産・パッケージ、健康長寿や病気の予防に資する生活習慣、働く女性のヘルスケアなどを科学的なエビデンスベースで提案します。そのために、荒牧キャンパスに学内外の研究者や産業界、地域の自治体関係者が集い、その成果を地域・社会に還元するオープンイノベーション施設を整備し、食健康科学の新たな価値を生み出す一大拠点をつくる構想を進めております。

国立大学は厳しい競争環境や少子化などの課題に直面しています。しかし、本学は、食健康科学を基軸にヘルスプロモーションを推進し、地域及び地球規模での、健康で幸福な社会の実現に貢献してまいります。この新施設の建設に対して、皆様の御賛同をいただくとともに、群馬大学基金に御支援を賜りますようお願い申し上げます。

群馬大学基金へ御支援いただきありがとうございます。引き続き御支援をお願い申し上げます。

御寄附は Web サイトから可能です。
(クレジット・コンビニ・銀行振込 対応)

群馬大学基金

検索

<https://kikin.gunma-u.ac.jp/>



群馬大学基金お問合せ先

国立大学法人群馬大学 総務部総務課基金係
〒 371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目 2 番地
T E L 027-220-7018
F A X 027-220-7012
Email kikin@ml.gunma-u.ac.jp